



誰もがなる可能性があるから、他人事じゃない

認知症は“気づいた時が受診のタイミング”

～早めの相談が、安心につながります～

### 早期受診のメリット

#### 1 治療・病状管理の選択肢が広がる

- ・進行を遅らせる:アルツハイマー型などでは、早期の薬物治療が進行を穏やかにする効果が期待できます。
- ・治る・改善する認知症の発見:正常圧水頭症や慢性硬膜下血腫など、治療で改善する病気を見逃さずに対応できる場合があります。

#### 2 今後の生活の準備ができる

- ・本人がしっかりしているうちに、介護サービスや成年後見人制度の利用、今後の財産管理などを話し合える。
- ・本人と家族の心理的なストレスを軽減できる。

#### 3 正しい理解に基づく対応

- ・症状が「病気によるもの」と理解でき、介護者のイライラや家族間のトラブルが減る。

#### 4 社会的な支援を受けられる

- ・診断を受けることで、介護保険などの公的サービスを円滑に利用できる。



#### こんな時にご相談ください

- ! 予定を忘れることが増えた
- ! 財布や鍵をよくなくす
- ! 料理や買い物など、慣れた作業に時間がかかる
- ! 気分の落ち込みや不安が続く



※どうしても受診に繋がらないときは、先に家族だけでかかりつけ医や専門医に相談してみましょう

《受診の勧め方》こんな風に声をかけてみてはいかがでしょうか !!

○「(かかりつけの主治医の先生が)受診を勧めていましたよ」

○「同年代の人はみな受診しているようですよ」



# 終活について考えてみよう

超高齢化社会となり、独居高齢者世帯の増加があります。また、家族が遠方に住んでいて日頃の交流はないなど家族関係の希薄化も見られています。

終活とは「自分らしく今をよりよく生きるための活動」であり、周囲の人たちに迷惑をかけないように準備をしておくことにもつながります。

自分らしく最期を迎えるために…

## エンディングノートを書いてみよう

エンディングノートの保管場所を家族などに伝えておくことも忘れずに。

- 家族の情報
- 交友関係リスト  
葬儀で参列してほしい人など
- 資産情報  
銀行口座、保険、株券など
- 医療情報  
かかりつけ医、既往歴、延命措置  
や終末期医療への希望など
- 介護の希望
- お墓やお葬式の希望

## ○デジタル終活(スマホやパソコン)

- ・事前に写真などのデータの整理
- ・パスワードやログイン ID を残す  
※解約などに必要。家族であっても ID  
などがわからないと解約できない。

※パスワードの記載は注意が必要

1人で悩まず、  
家族や信頼できる人に相談しながら  
考えましょう

自分や周りの人たちの安心のために…

## 任意後見制度について知ろう



1人暮らしの方の認知症が進んできた、高齢夫婦が急に病気になってしまったなどで、契約やお金の管理、入院の手続きが出来ず困っていると地域の方から心配して相談くださることがあります。対応できる親族が見つからない場合には**成年後見制度**の利用を検討していくことになります。

○**法定後見制度**…判断能力が低下した方に対し、裁判所が後見人を選定する。

○**任意後見制度**…判断能力があるうちに、自分が信頼できる人と契約を結んでおく

### 《任意後見制度のメリット》

“認知症になったら”ではなく、  
誰に何をお願いしたいか  
今のうちから自分で決めておく

⇒自分が希望する最期を  
伝えておくことができる



「今はまだ大丈夫」ではなく、  
いつかのため、自分のため、周りの  
心配してくれる方達のため…  
将来に向けて考えてみませんか？

